

[練馬区立美術館 開館40周年企画]

シンポジウム

地 域 社 会

2025年11月30日(日) 13:30~15:30 [13:00 開場・受付開始]

会 場：日本大学芸術学部

A棟B-101教室 [地下1F] (練馬区旭丘2-42-1)

申 込：事前申込制 (応募方法は裏面をご確認ください、入場無料)

主 催：練馬区 後 援：日本大学芸術学部

と 美 術 館

All the native flowering
plants of the north-western
quadrant of Bororo are
described in the text with
free option only of the
jedes and a few A small number
of plants from the
old is listed and
neighbourhood of Hana
A society established

今秋開館40周年を迎えた練馬区立美術館は、地域に根差した美術館として活動を展開してきました。練馬ゆかりの作家等の展覧会を開催し、作品を収蔵するほか、区民の創作・発表の場となり、また子どもから大人までを対象に多様な教育普及事業も行っています。こうした基本的活動に加え、新しい時代の美術館には、まちづくりや地域振興などこれまで以上に地域社会において広範な役割を担っていくことが期待されています。今回のシンポジウムでは、地域社会におけるこれからの美術館のあり方、その未来と可能性について、パネリストの活発な議論を通じて、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。

パネリスト



青木 野枝 彫刻家

東京都練馬区生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科(彫刻コース)修了。1980年代より、工業用の鉄板をパーツに溶断し、溶接して組み上げるシンプルな作業を繰り返すことで完成する作品を制作。近年の展覧会に「ゴヤからピカソ、そして長崎へ 芸術家が見た戦争のすがた」展(2025、長崎県美術館)、「そこに光が降りてくる 青木野枝/三嶋りつ恵」展(2024、東京都庭園美術館)、個展「光の柱」(2023、市原湖畔美術館)など。第71回(2021)芸術選奨文部科学大臣賞、第40回(2017)中原悌二郎賞など受賞歴多数。全国各地の美術館に作品が収蔵されている。



五十嵐 太郎 東北大学大学院工学研究科教授

パリ生まれ。建築史・建築批評。東京大学大学院建築学専攻で博士号取得。2007年より東北大学大学院工学研究科・工学部准教授、2009年より現職。第64回(2014)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。第11回(2008)ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の日本館コミッショナー、あいちトリエンナーレ2013の芸術監督、「インボッシブル・アーキテクチャー」展(2019-20巡回)の監修を務める。主な著書に『新宗教と巨大建築 増補新版』(2022、青土社)、『増補版 戦争と建築』(2022、晶文社)、『建築の東京』(2020、みすず書房)など。



尾崎 信一郎 鳥取県立美術館館長

1962年鳥取生まれ。大阪大学文学部大学院芸術学研究科博士課程単位取得修了。兵庫県立近代美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館、鳥取県立博物館を経て、2024年に鳥取県立美術館初代館長に就任。同館は今年3月開館。企画した主な展覧会は、「重力-戦後美術の座標軸」(1997、国立国際美術館)、「Our Of Actions - Between Performance and the Object」(1998、ロサンゼルス現代美術館ほか)、「生誕100年 彫刻家辻智堂展」(2010、鳥取県立博物館)、「アート・オブ・ザ・リアル」(2025、鳥取県立美術館開館記念展)。著書に『絵画論を超えて』(1999、東信堂)、『戦後日本の抽象美術』(2022、思文閣出版)、共著に『美術批評と戦後美術』(2007年ブリュッケ)ほか。



鞍掛 純一 日本大学芸術学部 学部長、美術学科教授

1967年東京生まれ。彫刻家。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業後、同大学研究所修了。個展やグループ展にて作品を発表。大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2006に「脱皮する家」を発表し、以後地域の資源を活用しながら毎回出品。練馬区立美術の森緑地の彫刻を手掛けるなど、行政や企業と連携し様々なプロジェクトに携わる。また同大学の美術学科に地域芸術学専攻を立ち上げ、後進の指導にもあたっている。主な作品に「大地のおくりもの」、「脱皮する時」、「木湯」がある。



冨田 章 東京ステーションギャラリー館長

1958年新潟生まれ。成城大学大学院文学研究科修了。(財)そごう美術館、サントリーミュージアム[天保山]を経て、現職。専門は近現代美術。これまでに企画した展覧会に「梶田半古の世界」展、「ロートレック パリ、美しき時代を生きて」展、「エミール・クラウスとベルギーの印象派」展、「幻の画家 不染鉄」展、「メスキータ」展、「宮脇綾子の芸術 見た、切った、貼った」展など。主な著書に『偽装された自画像』(祥伝社)、『ピアズリー-怪奇幻想名品集』(2014、東京美術)、訳書にアラン・ポウネス著『ゴッガン』、キャサリン・ティーン著『クリムト』(西村書店)など。2024年より全国美術館会議会長を務める。

プログラム

13:00 ○	13:30-13:40 ○	13:40-14:30 ○	14:40-15:30 ○
開場・受付開始	イントロダクション 大木裕子(練馬区地域文化部長)	基調講演 冨田章、尾崎信一郎	パネルディスカッション 青木野枝、五十嵐太郎、尾崎信一郎、鞍掛純一、冨田章、大木裕子、伊東正伸(練馬区立美術館長)



司会：
柴田 祐規子 NHK財団アナウンサー

申込方法

定員：200名(先着順)
申込方法：電話、FAXまたはEメールでお申込みください。

必要事項：

- ①催し名(シンポジウム「地域社会と美術館」)
- ②代表者氏名
- ③参加人数

申込締切：11月27日(日)締切

申込先：練馬区文化・生涯学習課管理係
電話 03-5984-1285 / FAX 03-5984-1228

Eメール bunkashougai10@city.nerima.tokyo.jp



公式HP



会場：日本大学芸術学部 A棟B-101教室[地下1F](練馬区旭丘2-42-1)
西武池袋線江古田駅下車北口徒歩1分
大学キャンパス内には入らず、歩道を進み直接A棟へお越しください。
駐車場及び駐輪場は用意しておりませんのでご注意ください。
※会場へのお問い合わせはご遠慮ください。

お問合せ：

練馬区文化・生涯学習課管理係
〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1 電話 03-5984-1285(直通)